

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

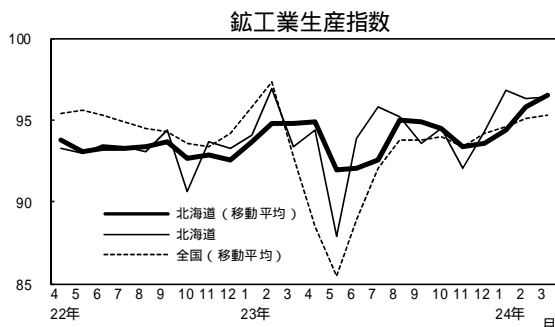
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年2月)	今回(平成24年5月)	
景況判断	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
住宅建設	増加	大幅に減少	
雇用情勢	持ち直しの動き	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を上回っている。
1～3月期は、生乳生産は、牛乳等向けで増加したため、総量では979,630tと前年比1.9%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ等が増加したため、前年比60.5%増となった。
- (2) 鉱工業生産は、持ち直しの動きがみられる。
食料品は年末商戦で好調だったビールがその反動で減少したことや、例年3月いっぱいまでフル生産される砂糖が昨年の夏の天候不良の影響により、2月初めまでにフル生産が終了したため減少した。パルプ・紙は、輸入紙に押されたことにより減少した。鉄鋼は、エコカー補助金の影響で自動車用途が好調なため増加した。電気機械は、デジタル家電が低調なため減少した。金属製品は、公共工事や民需の拡大により大幅に増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
食料品	23.9	1.1	1.3	1.3	0.4		
パルプ・紙	10.7	3.0	3.2	5.8	2.4		
鉄鋼	8.6	2.9	6.9	5.0	2.3		
電気機械	8.4	21.2	3.5	3.9	7.2		
金属製品	8.0	17.9	22.7	18.3	23.8		
鉱工業	100.0	1.4	3.1	1.4	4.9		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

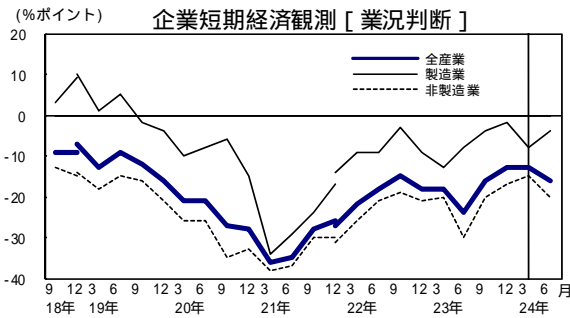
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

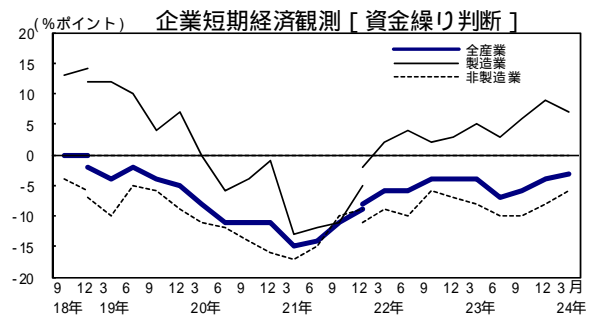
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

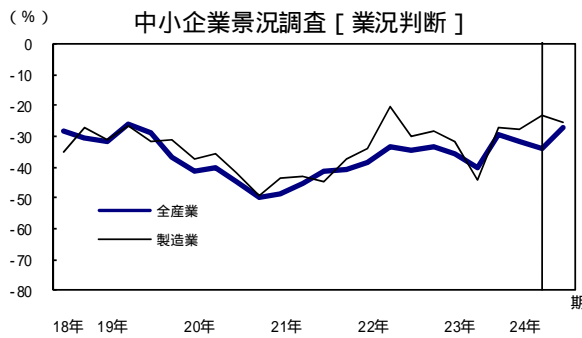
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年6月は予測。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

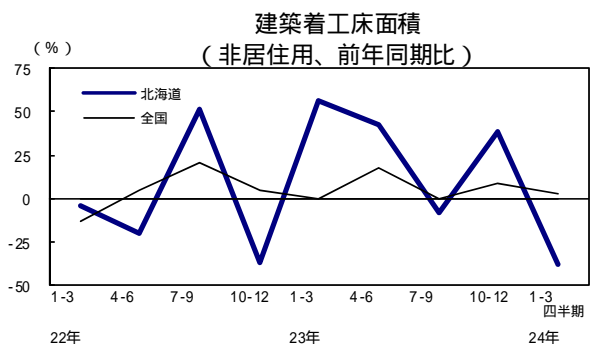
「例年、不動産の取引が雪解けとともに多くなるが、今年は停滞したままである。原油高、増税問題、電力事情など不安材料が多すぎるため、高額な投資に対して消極的な姿勢がみられる(司法書士)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

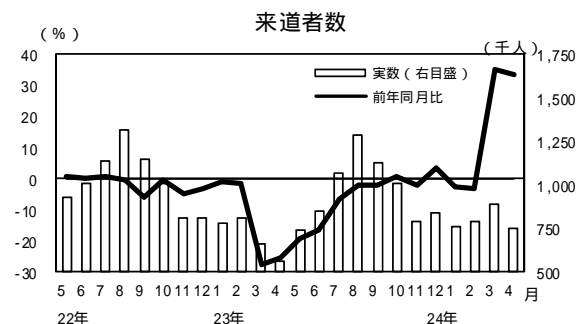
	(前年度比、%)	
	23年度実績見込み	24年度見画
全産業	15.7(1.6)	10.1
製造業	16.2(11.8)	12.1
非製造業	15.5(11.8)	23.3

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、持ち直しの動きがみられる。

来道者数は、1月は鉄道で前年の反動減が出ており、航空機では新千歳空港の降雪による欠航便増加により前年を下回った。2月は春節の時期がずれたため中国人観光客が少なかったこと等により前年を下回った。3月は東日本大震災の影響による反動で前年を上回った。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

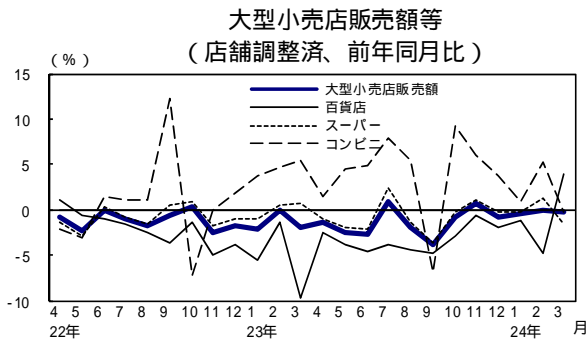
(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

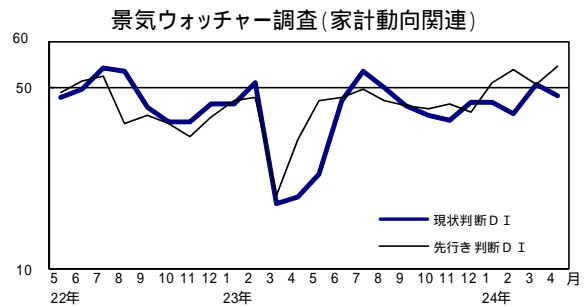
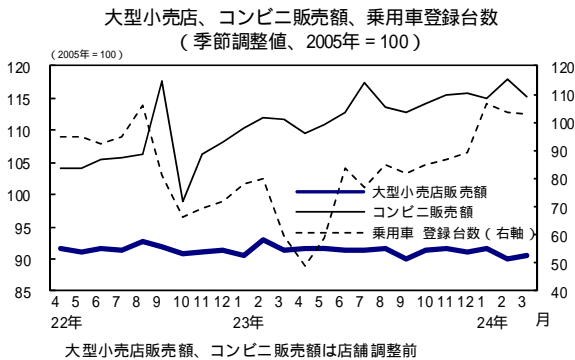
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で0.3%減、前期比で0.7%減となった。百貨店は、1月は、初売りは好調だったが気温が低く推移したため春物衣料の動きが鈍く前年を下回った。2月はひな人形や宝飾・貴金属などの高額品は順調だったが、気温が低かったため春物が動かず、全体では前年を下回った。3月は依然として気温が低かったため春物衣類の動きが鈍かったが、前年の東日本大震災の影響による反動により前年を上回った。スーパーは、野菜の価格上昇や、前年に東日本大震災の影響による特需でレトルト食品などの売上が伸びた反動もあり前年を下回った。
 景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]
 「今月の売上は、前年の東日本大震災の影響による特需の反動減から前年割れとなったが、前々年との比較ではプラスとなっており、トレンドとして必ずしも低下しているというわけではない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月
大型小売店(*1)	2.2	1.6	0.3	0.3
百貨店(*1)	3.6	4.2	1.8	0.5
スーパー(*1)	1.7	0.8	0.2	0.2
大型小売店(*2)	0.5	0.0	0.3	0.2
(季節調整値)(*3)	(0.1)	(0.6)	(0.3)	(0.7)
乗用車(*4)	31.2	11.8	25.0	48.7
(季節調整値)(*4)	(12.0)	(26.9)	(7.1)	(20.3)

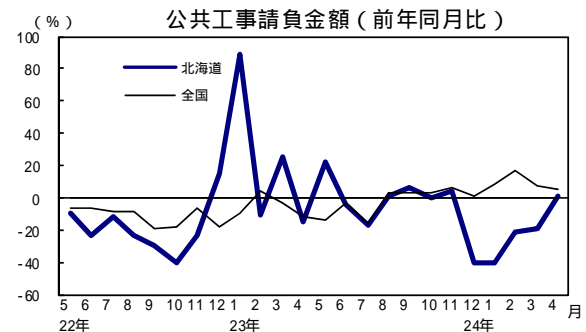
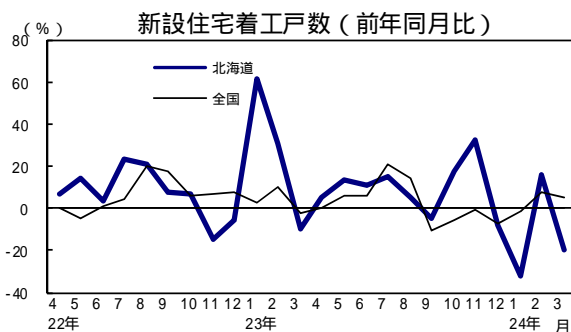
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)
 2. 店舗調整前、前年同期比(%)
 3. 店舗調整前、前期比(%)
 4. 乗用車は新規登録・届出台数
 (上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

分譲、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

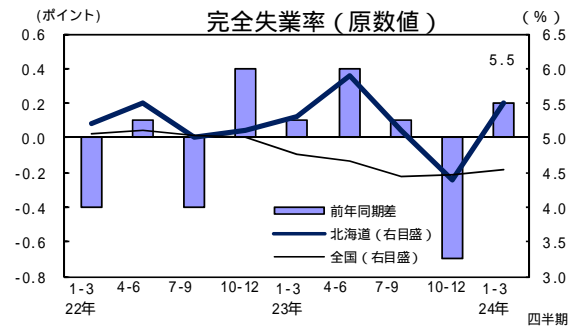
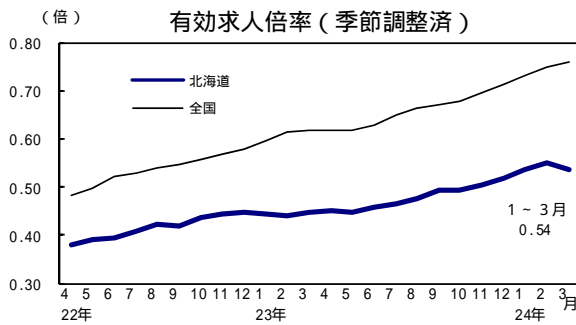


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

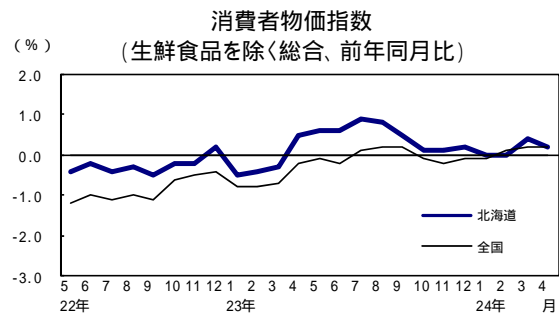
「管内の3月の新規求人数は前年から4.9%の増加となっており、有効求人倍率も前年を0.09ポイントと大きく上回ったが、その要因は新規求職者が減少したことによるものである。新規求人についても更新求人の割合が高かったことから、求人と求職のミスマッチが依然として続いており、厳しい状況は変わっていない(職業安定所)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数は増加し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月	24年4月
倒産件数	123	104	102	135	41
(前年比)	8.8	6.3	4.7	8.0	21.2
負債総額	356	287	144	243	63
(前年比)	17.0	44.8	40.2	16.4	42.7



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- 低価格メニューが好評で前年並みの売上となった。北海道版グルメガイドが発売になったことで、星付きレストランは予約が集中しているが、星がなかったり、調査対象外のレストランは客足が悪く、特にディナー客が減少している(高級レストラン)

<先行き>

- 震災復旧物件に加えて、北海道新幹線や札幌の大型オフィスの建設、競馬場の改修など、大型案件が具体的になっており、これからの荷動きが期待できる(輸送業)

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

